

令和 5 年度 県立太田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校									
昨年度の成果と課題		重点項目		重点目標		達成状況					
【成果】 ・「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を通して、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる生徒が増えてきた。 保護者アンケート（生徒同士の対話や、教員との質疑応答の機会を設けている。88.4%） ・すべての授業において、年間を通して、探究的な視点を取り入れた授業を実践し、生徒の授業満足度が高まっている。 保護者アンケート（生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考えることができる時間を設けている。85.5%） ・外部の大会等に積極的に参加したことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まってきている。 保護者アンケート（生徒が課題解決に向けて探究した成果について、発表する機会を設けている。80.3%） ・学習支援ソフトやアプリを効果的に活用して、ICTを効果的に活用した教育活動を進めることができる。 生徒アンケート（コンピューターやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している。75.4%） 【課題】 ・学習における理解度に個人差が見られ、習熟度や少人数など、生徒一人一人の理解度に応じた支援・指導が必要である。 ・キャリア教育を通して、自己の可能性を発見し、将来の夢に向かって今の自分に必要なことを考え、判断し、実践していく力をつける必要がある。 ・教職員の意識は向上しているが、仕事量が多く、年間を通して月 45 時間以内に抑えられない教員がいる。		・知識・技能の確実な習得を図るための繰り返し学習の充実 ・生徒一人一人の理解度に対応した習熟度別授業の実施		生徒一人一人の学習理解度の把握と学習アプリ等を活用した個に応じた指導を展開する。 生徒アンケート（生徒の学習状況を把握し、一人ひとりに適切にアドバイスしている。90.0%（R4 88.8%）） 国語、数学、英語科で主体的な学習を促すための習熟度別授業を実践する。（全年）		A					
		・教育活動のあらゆる場面で、コミュニケーションの場や体験的な学習の重視 ・教育活動のあらゆる場面で、自分の考えを伝える場の設定		「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。 様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる。 保護者アンケート（生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考えることができる時間を設けている。90.0%（R4 85.5%））		A					
		・生徒の主体性を生かした探究的な学習の充実 ・教員同士の授業参観を通して授業改善への積極的な取り組み ・各教科における生徒の授業満足度の向上		学校教育のすべての教育活動において、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。 保護者アンケート（生徒が課題解決に向けて探究した成果について、発表する機会を設けている。85.0%（R4 80.3%）） 各教員が毎月 1 回以上は、他の教員から気づき・学びを得ることを目指す。 各教科における生徒の授業満足度を高める。 生徒アンケート（生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考えることができる時間を設けている。）85%（R4 82.9%）		A					
		・従来の指導にベストミックスさせる ICT の効果的な活用		ICT を意図的・効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 生徒アンケート（コンピューターやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している。）80%（R4 75.4%）		A					
		・実践的な英語コミュニケーション能力の育成 ・段階的な異文化理解体験を通して、国際教育の推進		中学 3 年終了時点で、英検準 2 級相当の生徒の割合を増やす。50%（R 4 41.2%） 各学年の体験活動に取り入れ、段階的に実践していく活動を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。 保護者アンケート（学校は国際教育に熱心だと思う。90.0%（R4 84.7%））		A					
		・1 か月平均超過勤務時間数の削減		1 か月平均超過勤務時間数を 45 時間以下にする。【全職員】		B					
評価項目		具体的目標			具体的方策			評価		次年度（学期）への主な課題	
教科指導		1 学習指導の技術を向上させ、主体的・対話的で深い学びを実現するとともに確かな学力の定着を図る。 2 ICT 機器を有効に活用して個に応じた深い学びの実現を図る。 3 自主的・自律的な生活態度を育成し、学習習慣の確立を図る。			(1)学習意欲を喚起し、対話的でわかりやすい授業の実践に努める。			A	B	・生徒の実態や個人差に応じた指導の工夫をしていく。 ・家庭学習確保するためのより一層の工夫をする。	
					(2)自己管理能力を高め、家庭での学習時間を確保させ、基礎学力の向上と定着を図る。			B			
					(3)ICT 機器を活用し、学習の成果を可視化するとともに、個に応じた指導を展開する。			A			
					(4)生徒理解のための学習状況調査を実施し、課題を分析・検討して、具体的対策を講じていく。			B			
教科		1 言語活動を充実させ、言葉を正しく理解し表現する力の育成を図る。			(1)言語活動を通して、主体的・対話的な授業の実践に努め、根拠や理由を明確にして互いの考えを伝え合う力を育成する。			A	A	・ICT の有用性と国語科能力の育成を結びつけていく必要がある。 ・中学校で系統的な学びを意識した授業実践を行っていたが、中高連携という視点での学びの研究が足りなかった。	
					(2)ICTを活用し、情報を収集・整理したり自分の考えをわかりやすく表現したりする力を育成する。			B			
		2 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。			(3)中高の連携を図り、授業の相互参観や合同授業を行い、系統的な学びの研究と実践をする。			A			
					(4)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。			B			
		3 読書活動を推進し、語彙力を高める。			(5)知識や情報を得たり、考えを広げたりするために読書活動の充実を図る。			A			
科		1 学習意欲を喚起し、基礎・基本の定着を図る授業改善に努める。			(1)ICTを積極的に活用し、家庭学習教材を準備して、各自で家庭学習を進められるようにする。 (2)小テスト等を実施し、単元ごとの習得すべき力を明確にして学習内容の確実な習得を図る。			A B	B	・調べ学習を増加し、自ら探究する力を育むと共に、他者との意見交換を通じて多角的な思考力を高めていく。	

別紙様式 2 (中)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	会	2 社会的な思考力・判断力・表現力を育てるための指導に努める。	(3)グループ・ワークや調べ学習を通して、主体的・対話的な問題解決的学習を推進する。	B	
	数学	1 個に応じた指導に努める。	(1)小テスト等を利用して学習の理解度を把握し、きめ細かな指導を推進する。	A	B ・グループワークを多く取り入れ、主体的に問題に取り組む力を育てる。 ・基礎計算を行う時間を増やし、定着を図る。 ・学力推移調査の後には振り返りをし、発展的な内容の定着を図る。
			(2)少人数指導・習熟度別指導による生徒の実態やニーズに応じた指導を行う。	B	
			(3)ICT機器を活用した個別指導の場を設定し、学習内容の定着を図る。	B	
		2 基礎力の向上を図るとともに、応用力の向上を図る。	(4)問題演習の時間を設け、基礎計算力の定着を図る。	B	
	理科		(5)生徒の学力に応じて授業内容を精選し、発展的な内容を扱う。	A	B ・探究の過程を考慮したうえで、単元指導計画の立案をする必要がある。実験内容等を見直し、科学的な思考力、表現力の向上を目指した指導計画の立案に努めたい。
		1 基礎・基本の確実な定着を目指す。	(1)ICT機器を有効に活用し、学習意欲を喚起する授業の実践に努める。	A	
		2 探究の過程を重視し、科学的思考力・表現力の育成を目指す。	(2)わかりやすい授業を実施し、基礎学力の向上を図る。	A	
	保体		(3)探究の過程を重視した指導計画の立案に努める。	B	B ・男女共修の視点で、全員が楽しめるルールを自分たちで作り上げる取り組み ・実技において ICT を活用した授業展開 ・体力の向上に向けた授業展開の工夫
		1 運動技能を高め、規律ある行動や態度を育成し、基本的生活習慣の確立を目指す。	(4)実験・観察の結果を蓄積し、学習の振り返りを重視した授業実践に努める。	B	
	美術・音楽	2 保健の知識を身に付けさせ、生活に生かせるようにする。	(1)整列、挨拶、時間、服装等の決まりや約束を守る態度を育成し、体力の向上並びに運動に親しむ資質や能力を高めさせる。	B	B ・合唱祭に向けての練習時間の確保 ・各展覧会への出品する作品作成の時間確保 ・外部展覧会の鑑賞への周知 ・学力面・生活面で多様な生徒に沿った課題内容の検討。
		1 表現力の向上を図る。	(2)健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにさせる。	A	
			(1)個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。	A	
	英語	2 鑑賞の基礎的能力を深める。	(2)さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。	A	A ・少人数授業のあり方 さらに個々にアプローチして、主体的に学習に向かう態度を向上させるための研究を継続する。 ・ALT との TT 学年を通した TT の計画を立て、学年の行事などの特徴に沿ったアシストをしてもらえよう、さらに働きかける。効果的な TT を研究する。 ・4技能5領域を意識した計画をさらに充実させる。
		3 主体的・対話的な授業への取組に努める。	(3)生徒の素直な見方を尊重しつつ、制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。	B	
			(4)互いの作品を鑑賞するとともに、さまざまな展覧会の鑑賞も促す。	B	
			(5)生徒が興味をもつような題材を設定して、意欲をもって制作活動ができるようにする。	B	
		1 基礎・基本の確実な定着に努める。	(6)自分の表現のテーマ（主題）を明確化させていき、それにふさわしい表現を工夫させる。	A	
			(1)到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、適切な評価を行う。	A	
		2 家庭での学習習慣の定着に努める。	(2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を検討する。	A	
		3 生徒の総合的な英語の能力を伸ばす授業の改善に努める。	(3)具体的な課題を設定し、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実させる。	A	
			(4)課題やノートを定期的に点検し、生徒一人一人の実態に即したアドバイスをしなが、家庭学習の習慣をつけさせる。	A	
教務部	技術・家庭		(5)個々の生徒の、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、ALT との TT 授業を効果的に展開する。	A	B ・生徒の実態に合わせた実習内容や学習形態の工夫が必要である。
		1 技術・家庭に関する知識や技能が身に付くように努める。	(6)授業と評価の一体化を図り、4技能5領域をバランスよく育成する。	B	
			(7)表現力を高めるパフォーマンステストを行い、観点別評価の研究を深める。	B	
			(8)ICT機器を活用し、実際に英語を活用する場面や、異文化理解を進める機会を設定する。	A	B ・生徒の実態に合わせた実習内容や学習形態の工夫が必要である。
		2 生活の課題を見出し、それを改善しようとする態度を育てる。	(1)実験・実習の形態を工夫し、生活に必要な基礎的・基本的な知識の習得を目指す。	B	
			(2)疑似体験などの体験学習を多く取り入れ、学習内容の理解・関心が深まるよう努める。	B	
			(3)個に応じたきめ細かな指導を行い、さらなる学習意欲の向上を図る。	B	
		3 授業がわかる喜びを実感するよう改善に努める。	(4)生活ハンドブックの利用し、家庭に関する興味・関心を深めさせる。	B	
			(5)ホームプロジェクトを通して身近な生活に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考えさせる。	B	
	教務		(6)各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。	B	B ・中高連携の面において、授業や学習に關しての交流の機会を増やしたい。 ・カセットや行事で、国数英以外の授業の確保が必要な教科がある。授業時間が少なくなってしまう教科ができたときには、授業時間の確保ができるよう確認や調整が必要。 ・小学生対象説明会等の充実。
		1 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。	(1)中高一貫6年間を見通した教育課程の工夫・改善に努める。	B	
		2 特色ある学校行事の推進を図る。	(2)少人数指導・習熟度別授業・TT等の個に応じた指導のシステムの充実を図る。	A	
			(3)高校と連携し、異年齢交流を生かした学校行事の企画・運営に努める。	B	
		3 授業時間の確保に努める。	(4)遠隔教育システムを有効活用した、他校との交流を推進する。	B	
			(5)出張・年休等における授業の確保に努める。	A	
			(6)学校行事等の能率的運営を図る。	B	

別紙様式 2 (中)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
		4 広報活動の充実を図る。	(7)学校説明会の機会を増やし、小・中学校及び地域への広報活動に努める。 (8)併設型中高一貫校の説明・広報を進め、生徒の確保を図る。	A B	・小学生対象説明会等を充実させ、受検者数確保を図る。
渉外広報部	渉外広報	1 創意工夫ある広報活動の推進を図る。	(1)学校を紹介するために、スクールガイド、ポスター、リーフレット、チラシ等を作成し、幅広い広報活動を進める。	A	B ・広報活動の立案なども生徒と一緒に考えていくなど、生徒主体に学校広報活動を行うことが今後の課題といえる。 ・学校にチラシやスクールガイド、HPを活用して、児童一人ひとりに本校の良さを知ってもらえるよう方策を検討したい。
		2 各分掌との連携を図り、学校 PR に努める。	(2)教務部と連携し、学校説明会の企画・運営に携わり、本校のよさや特徴を周知する取組を積極的に進める。	A	
		3 生徒の主体的な活動を取り入れた広報活動を進める。	(3)ICT推進部と連携し、学校の様子や生徒の活動の様子など PR に効果的な素材を見つけ、HP等で効果的に発信する。	B	
			(4)生徒とともに創る活動を取り入れ、生徒の思いや成長、課題など、さまざまな視点からアイデアを生かした広報活動の充実を図る。	B	
探究推進部	探究活動	1 探究活動の充実を図る。	(1)各教科において「探究的な学び」を推進する。 (2)生徒が主体的、創造的、協働的に取り組む活動をすすめる。	A A	A ・生徒が主体的、創造的、協働的に取り組むことができるような、持続可能な指導方法。
		2 中高連携での取組の充実を図る。	(3)中高の交流を取り入れた活動を推進する。	B	
			(4)成果発表の機会(探究活動中間発表会や中高合同成果発表会等)を設け、互いのよさを共有する。	A	
		3 地域や他校との関わりを大切に活動を進め推進する。	(5)地域探究セミナーやフィールドワーク、出前講座などを積極的に実施し、主体的な探究活動の推進に努める。	A	
			(6)他校との連携プロジェクトにおける意見交換や交流などを通して、一人一人の深い学びの実現を図る。	A	
キャリアサポート部	進路指導	1 6年間を見通した計画的・系統的な進路指導に努める。	(1)高校と連携しながら、共通する進路関連行事を推進する。	A	B ・学力推移等の分析結果を生徒にフィードバックする。 ・生徒のポートフォリオの入力・入力内容のフィードバック。 ・1～3年を通しての進路指導。
		2 適切な進路情報を提供し、進路意識の高揚を図る。	(2)HR 進路講演会、職場体験学習、大学見学、ゲストティーチャーの活用などによる進路意識の高揚を図る。	B	
			(3)オンラインサービス等を利用したデータの提供・分析等にあたり、各学年の指導に合った適切な資料の提供を図る。	B	
			(4)保護者面談等で適切な進路情報の提供をする。	A	
		3 各学年及び各教科・領域と連携を図り、生徒の自己実現の支援に努める。	(5)外部模試を活用した生徒分析と進路指導との有機的な連携を図る。	B	
			(6)e ポートフォリオを活用した情報の蓄積と自己実現への効果的な支援に努める。	B	
			(7)定期的な個別面談により、生徒の願いをとらえ、全職員でその実現のための支援をする。	A	
特別活動部	特別活動	1 生き生きとした中学校生活の確立を図る。	(1)HR や学校行事を通して生徒の主体的行動を支援し、自主性を育む機会をつくる。	A	B ・進路指導・各学年と連携をとり、発達段階に応じた自主的・自発的な活動を進める。 ・行事や部活動を通じて中高の連携をさらに深める。
			(2)キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるように自主的・自発的な活動を進める。	C	
		2 生徒会活動の活性化に努める。	(3)生徒会が学校行事の企画・運営に参画し、地域との連携を図りながら、生徒が主体の行事になるよう支援する。	B	
		3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実を図る。	(4)HR 年間計画をもとに、自主的・自律的な活動が充実して行えるよう支援する。	A	
		4 部活動の充実と発展に努める。	(5)部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体性を尊重した運営ができるよう支援する。	B	
		5 中高一貫教育校としての活動の充実を図る。	(6)各種行事をはじめ委員会や部活動、生徒会活動などを通じて高校と連携を図り、中高一貫教育校としての活動を充実させる。	B	
ウ	保健厚生	1 生徒・教職員の心身の健康の増進に努める。	(1)生徒が主体的に体調管理をできる力を育てる。	A	A ・教育相談室の環境整備を行い、生徒が相談しやすい雰囲気作りに努める。 ・生徒の健康意識を高め、自己の健康課題について主体的に解決できる力を育成する。 ・生徒の防災意識のさらなる向上を目指す。
			(2)生徒の健康安全を重視し学習環境の安全点検を行い、事故防止及び保健室の効果的な運営に努める。	B	
			(3)性教育等、各種健康教育を実施し、健全な健康観をつくる。	A	
		2 学習環境の整備に努める。	(4)清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る。	B	
			(5)冷暖房器具の安全管理及び生徒の健康管理に努める。	B	
		3 防火安全管理を徹底する。	(6)綿密な計画を立て、生徒が安全な行動をとれるように指導する。	A	

別紙様式 2 (中)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
エル ネス 部	生徒 指導	1 基本的な生活習慣の確立を図る。	(7)より実践的な避難訓練の方法を工夫し、生徒の危機回避能力を高める。	B	A	・学校全体に活力を与えるため、あいさつへの意識を高める必要がある。 ・スマートフォン関連のトラブルが数件あったので、定期的に生徒の意識向上を図る指導をするとともに、保護者への理解を求め続ける必要がある。
			(1)あいさつの励行と丁寧な言葉遣いを大切にしたコミュニケーション能力の育成に努める。	B		
			(2)物品への記名や管理意識の高揚を促し、自己管理能力の育成に努める。	A		
			(3)携帯電話の使用について、保護者と連携しながらマナーや適切な使用について徹底する。また、外部講師を活用した講演会等を実施し、安全な使用の仕方について意識かを図る。	B		
		2 交通安全指導の強化に努める。	(4)定期的に全職員での立哨指導を実施し、交通ルールを遵守した登下校を身に付けさせる。	A		
			(5)自転車の定期点検を実施し、安全な運転と保険の加入を推進する。	A		
			(6)教育相談体制を整え、生徒の精神面のサポートを丁寧に行う。	A		
			(7)学校不応や友人関係の悩みなど、さまざまなケースの状況を把握し、スクールカウンセラーとの連携を図り、早期発見・早期解決を図る。	A		
I C T 推 進 部	情報	1 校内 LAN の構築とその利用を図るとともにセキュリティの確保に努める。	(8)生徒指導部員会を開き、情報交換を密にして全職員で支援にあたる体制を整える。	A	A	・1 年生入学時のウェルネス部と連携した情報モラル・SNS の使い方等の講話の実施。
		2 ホームページの更新及び内容の充実を図り、活気ある本校の現状を発信する。	(1)授業・HR 単位でのコンピュータ室・ICT 機器利用の支援を行うとともに、情報モラルの徹底や情セキュリティへの意識とスキルの向上を図る。	A		
		3 ICT 機器の維持・管理を徹底する。	(2)渉外広報部や高校と連携しながら、定期的なホームページの更新内容の充実にも努める。	A		
		4 校内研修会を通して、知識・技術の支援を行う。	(3)学校事務や ICT 支援員と連携し、ICT 機器の適切な維持・管理に努める。	A		
	図書	1 図書館資料の充実を図る。	(4)生徒向けの情報モラル研修会の企画・運営にあたる。	B	B	・図書館を活用した授業を積極的に取り入れていきたい。 ・読書をする生徒を増やすために委員会活動を更に充実させる。(読者への呼び掛け、本の紹介等)
		2 学習・情報センターとしての図書館の利用促進に努める。	(1)学習活動や読書活動に活用できる図書を定期的に選定する。	B		
		3 図書委員会の活動の充実を図る。	(2)蔵書整理の基準により、生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する。	B		
			(3)書架の配架の工夫等により、様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める。	B		
			(4)各教科・各分掌との連携により、「学習・情報センター」としての機能を向上させる。	B		
			(5)「ビブリオバトル」や「読書月間」の実施など、図書委員の主体的な活動を促進する。	A		
第 1 学 年		1 中学生としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(6)「図書館便り」「図書館報」等の活動を通して、読書活動を推進する。	B	A	・学習支援が必要な生徒への個別指導のありかた。 ・グループエンカウンターを中心とした学級活動の内容の充実。
			(1)家庭との連携や教育相談を推進し、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A		
			(2)生徒一人一人の役割を明確にし、責任をもって活動できるようにするとともに、達成感や自己有用感を高められる支援に努める。	A		
			(3)担任・副担任・学年主任の学年団で、生徒一人一人の特性を理解しながら、生活および学習支援をする。	A		
		2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図るとともに、将来への夢や希望をもたせる。	(4)普段の生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。	A		
			(5)少人数学習、習熟度別学習、T Tを導入し、個に応じた指導を徹底する。	B		
			(6)ICTによる学習支援ソフト等を効果的に活用し、家庭学習の習慣化や弱点の強化を図る。	A		
			(7)e ポートフォリオと学習計画表を活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学习が進められるよう努める。	A		
		3 部活動や学校行事、特別活動等において、主体的に活動しようとする態度を育てる。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に意欲的・主体的・自律的に活動できるよう支援する。	A		
			(9)集団への帰属意識を高め一人一人が自己有用感をもちながら意欲的に活動できるよう支援する。	A		
		4 身の回りの事象に対する興味関心を高め、自ら課題を解決し発信する力を育てるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	(10)地域素材を活用した探究活動の充実にも努める。	A		
			(11)英語科指導や他の教科、領域、特別活動等の場で英語を使った会話を日常的に行う。	B		
		1 集団の形成者としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(1)家庭との連携や教育相談を推進し、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を築き、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	B	A	・欠席の多い生徒の状況を学年だけにとどまらず、他学年とも情報共有し、支援が必要な場合は全職員で支援していく。
			(2)生徒主体の活動の場を設け、生徒一人一人の個性の伸長と自己有用感を高める支援に努める。	B		
			(3)個を大切にす支援を継続的に行い、生徒が主体的に活躍できるHR運営をする。	A		

別紙様式 2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第 2 学 年	2 主体的に学び、それを生かそうとする態度を育成するとともに生きて働く知識・技能の習得を図る。	(4)学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、当番活動や委員会活動を通して、集団の一員としての責任感や協働する力を育む。	B	・生徒の実態を的確に把握し、基礎学力の定着・向上に繋がる指導方法の改善 ・検定試験への積極的な挑戦 ・家庭学習充実に向けた仕掛け ・多くの学校行事や特別活動において、生徒が主体的に行動し、リーダーシップを発揮できるような生徒を育成するために、組織づくりや声かけの工夫
		(5)少人数学習、習熟度別学習、T Tを導入し、個に応じた指導を徹底する。	A	
		(6)I C Tによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。	A	
		(7)e ポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	B	
	3 部活動や学校行事、生徒会活動において、主体的に活動しようとする態度を育てる。 4 実社会や実生活の事象を自己の生き方と関連づけ、自ら課題を解決し発信する力を育てるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に自主的・実践的に参画できるようにする。	A	
		(9)様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。	B	
		(10)職業調べや職場体験を通して、自己のキャリア形成を図る。	A	
		(11)教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での会話の向上を図る。	B	
	1 豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努め、主体的に取り組む態度と他者との協働により創造的に解決していく力を育てる。	(1)家庭との連携を密にし、教育相談を効果的に取り入れながら生徒との信頼関係を築き、一人一人の実態に合った支援をしながら、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A	・クラス全体の振り返りに関して、行事や各種試験の後に、クラス全体としての振り返りをして学習計画と記録を、次のモチベーションにするような働きかけをさらに充実させる。 ・総合的な学習の時間の使い方に関して、オーストラリア体験留学を軸とした計画であるが、留学前のイメージを持ちづらいので、夏休み前の計画を再検討すべき。留学後は逆に時間が足りないので、探究成果発表会までの効果的な時間確保が必要。
		(2)生徒の思いを大切にし、努力や活躍を認める声かけをして、自信をもって取り組ませながら、自己有用感を高める支援に努める。	A	
		(3)生徒の実態に応じた支援を継続的に言い、生徒が自分のよさを生かしながら、主体的に活躍できるHR運営をする。	A	
		(4)学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、様々な活動を通して、話す・伝える力を高め互いを尊重しながら協力・協働する力を育む。	A	
		(5)少人数学習、習熟度別学習、T Tを導入し、個に応じた指導を徹底するとともに、探究を軸とした学びのスタイルの確立に努める。	A	
		(6)I C Tによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。	A	
		(7)e ポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	B	
第 3 学 年	3 部活動や海外研修、学校行事、生徒会活動において、主体的に活動しようとする態度を育てる。 4 多様な価値観に触れながら、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に積極的・主体的に参画できるようにする。	A	
		(9)様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。	A	
		(10)実践的・体験的な活動を通して、今後の自分を見つめ、自己のキャリア形成を図る。	A	
		(11)教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での会話の向上を図る。	A	

※ 評価規準： A 十分達成できた B おおむね達成できた C 不十分である